

がほしいというお話なのですが、とてもほのぼのとした作品です。いかにも、実際にあり得ないことではないような気分になさせてくれます。そういわれてみると、どこでか、木の中にもぐりこめる大きな木があったような……。

まんがなどで大きな木の根元が動物の家になっていたり、トンネルになっていたりするのはよく見られます。現実には、ことりやりすが木の穴を利用して巣を作っていることはあるのでしょうか。残念なことに私は実際に見たことがありません。

一本の木の裂け目、そこをうまく利用していろいろな空想がなされ、遊びが展開される、なんとなく楽しいことではないでしょうか。幼稚園に本当に、かおるが考えたような大きな木があったら、なんとすてきなことでしよう。そんなことを思うのは、私がまだ幼いからでしょうか。でも、こんなファンタジックな世界を、そして、こんな想像性豊かな遊びを大切にしていきたいなと思う今日、このごろです。

(岐阜)

他者と共にいることが

嬉しい間柄を

杉田 稔

編集部から、不連続、亀裂、裂け目について寄稿を求められた。

ちょっと見廻せば、この世は到るところ分裂、対立だらけに見える。

国際間には米ソの対立、持てる国、持たざる国の対立、産油国対非産油国、イスラエルの国の存在を認めるかどうかをめぐるアラブ諸国間の分裂も耳新しいし、国内でも同和問題や障害者問題、自衛隊の存否をめ

ぐる対立もあれば公共用地の取得をめぐる対立もある。古典的な労使対立、労働運動間の対立、派閥間対立など数え上げるにいとまもない。

社会最小単位の家族の中にも、嫁姑に限らず親子や夫婦の間すら断絶と対立があり、自らのグループを團結さすためになら、わざわざ第三者を敵に仕立て上げるも辞さないのが現代社会ではなからうか。

そういう自分を顧みて見れば、「あの人さえないなければ……」のさもしい心が、自分の中にも巢喰っているのに愕然とさせられる。

ところで二千年前、遠いユダヤの地に生きていたイエス・キリストは、この現代のわれわれにも通じる「人間の現実」をしっかりと捉えていたようである。

その言行を味わい返して見ると、彼のする事なす事、語る事のすべてが、人々の反目を回避させ、疎外し合う人々に手を握らせる事に、また、和解のために心すべき事を示すにであったように思える。

よく思い出される「右の頬を打たれたら、左の頬も向

けなさい」（マタイ5の38以下）も、決して消極的な無抵抗主義ではなく、正義の復しゅうを肯定したら最後、和解はなくなる。なぐり返したい衝動を押さえて、それで相手の気が済むなら、もう一つ打たれても、仲直りしなさい。と言っているように取れる。

『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられて来た。だが、私は言う、敵を愛し、迫害する者のために祈れ、それでこそ、天の父の子なのだ。

天の父は悪人の上にも、善人の上にも、太陽を上らせ、また雨をも降らせて下さっていられるではないか。」

（マタイ5の43〜45）

「さばいてはならない」（マタイ7の1〜5）の教えも、他人にレットルを貼ったら、差別や疎外が生れこそすれ兄弟として受け入れるのは難しくなる。

それは、姦通の女が石打ちにされようとした時、「省みて罪なき者から石を投げたらよい」と言い、一人減り、二人減り、遂に全員立ち去った後、「私もお前を罪に定めない、ゆけ、二度と罪を犯すな」と告げたエビソ

100の中の子をキリストを見れば、その人の過去にこだわってレットルを貼るのでなく、その人の未来に希望をかけるのでなければ、対等の人間として受け入れ難くなる、という事を身を以て教えたように見える事からも言えるであろう。(ヨハネ8の11参照)

他人に譲る？ とんでもない、損をしてしまう。そんな事できっこない！

人はキリストの呼びかけを前にためらい、そんな自分を正当化するために、凡ゆる理由を並べる。今も、昔も同じような理由を。

キリストは答える。「人間にはできない事でも、神には(させる事が)できる。」とも、「先づ神の心を行えそうすれば、必要なものは神から与えられる」また「人間の目に良しとされる事と、神から良しとされるものとは同じでない」とも。(マタイ19の26・6の33ルカ16の15参照)

× × ×

電車の中で見かけた情景です。

「そうよ、そうなのよ、ママ」

「そうだったの、やっと分ったわ」

見交す二人の顔がパッと輝きました。

たまたま居合せた私にも、目の前の親子の幸せが、何かほのぼのと温いものとして、伝って来ました。

そして、コートの際を立て、晩秋の道を歩みながら、私はしみじみと思いました。

あの親子の顔の輝きは神の喜び、神の栄光の照り返しではなかったろうか、と。

そして、この木枯しの吹きすさむ世界の、到るところに、相互の理解と、パートナーとしての受け入れ直しとが、新たにされてゆきますように、……、と。

(カトリック東京教区司祭)

